

注 意 報

農技セ第5513号
令和2年8月13日

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和2年度農作物病害虫発生予察情報について

令和2年度農作物病害虫発生予察注意報第2号を發表したので送付します。

令和2年度病害虫発生予察注意報第2号

令和2年8月13日
徳 島 県

8月第3半旬の巡回調査において、トビイロウンカの生息密度が平年に比べて高かったことから、9月中旬以降に収穫する圃場では坪枯れの被害が懸念されますので、注意報を発令します。

現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：普通期水稻及び酒米(山田錦等)

病害虫名：トビイロウンカ

1. 発生地域 県内全域

2. 発生時期 8月中旬～

3. 発生程度 多(前年より多く、平年より多い)

4. 注意報発令の根拠

(1) 8月第3半旬の早期水稻および普通期水稻の巡回調査では、発生圃場率が56.8%と平年(15.4%)に比べて高く、県下全域で発生が確認された。なお、増殖力の高い短翅型雌成虫の発生圃場率は48.6%であった(表1, 写真1)。

(2) 高松地方气象台が8月13日に発表した1ヶ月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、トビイロウンカ(写真2, 3)の増殖に好適な気象条件が続くと考えられる。

5. 防除法等

(1) 圃場における発生状況を早期に確認し、1株当たりの成幼虫数が1頭以上の場合は薬剤防除を行う(表2)。

(2) 本虫は株元に生息しているので、薬剤が株元に十分到達するように丁寧に散布する。

(3) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

表1 トビイロウンカの発生状況(早期・普通期)

地域※	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率 (%)	短翅型成虫発生圃場数	短翅型成虫発生圃場率 (%)
北中部	14	10	71.4	9	64.3
東部沿岸	10	2	20.0	1	10.0
西部	11	7	63.6	6	54.5
南部	2	2	100.0	2	100
県全体	37	21	56.8	18	48.6
平年	45.5	7	15.4	-	-

※

北中部：藍住町、板野町、上板町、阿波市、吉野川市、石井町

東部沿岸：徳島市、小松島市、阿南市

西部：東みよし町、三好市、美馬市

南部：海陽町、牟岐町



写真1 トビイロウンカ短翅型雌成虫



写真2 株元に生息するトビイロウンカ



写真3 トビイロウンカによる被害(坪枯れ)

表2 トビイロウンカに使用可能な主な農薬(農薬登録内容:2020年8月13日現在)

作物名	農薬名称 (商品名)	希釈倍数・使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	RAC コード
稲	MR.ジョーカーEW	2000倍	収穫14日前まで	2回以内	散布	3(A)
	アドマイヤー1粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	4A
	アドマイヤー水和剤	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	4A
	アルパリン粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4A
	エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	4C
	スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4A
	ダントツ水溶剤	4000倍	収穫7日前まで	3回以内	散布	4A
	トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3(A)
	トレボン水和剤	2000倍	収穫21日前まで	3回以内	散布	3(A)
	トレボン乳剤	1000~2000倍	収穫14日前まで	3回以内	散布	3(A)
	トレボン粒剤	2~3kg/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	3(A)
	なげこみトレボン	水溶性容器10個(500mL)/10a	5葉期以降 収穫21日前まで	3回以内	本田に水溶性容器のまま投げ入れる	3(A)
	ワイドパンチ豆つぶ	250g/10a	収穫35日前まで	1回	散布	2(B)